

## 第2学年4組社会科学習指導案

平成17年 7月 6日(水) 第5時限 2の4教室 教諭 村田 貴志

### 1 単元 「世界の国々の調査」～日中関係、未来のアジアのパートナーシップを模索しよう～ (11 時間完了)

#### (1) 構 想

##### ①教材観

日中平和友好条約が締結されて四半世紀が経つ。この間に日本と中国は、文化面、経済面あらゆる面でアジアのパートナーとして関係を強めてきた。現に日本のアジアにおける最大の貿易相手国は中国であり、身の回りを見渡してもメイド・イン・チャイナが溢れている。そんな日中関係の雲行きが、今あやしい。歴史教科書問題、小泉首相の靖国神社参拝問題、はたまた、日本海における国境線問題に、先日中国各地で起こった、反日デモ。トラブルの原因は単純なものではなく、様々な要因が複雑に絡み合った難しいものであるが、こうしたニュースを見るたびに、今後の両国の関係に不安を感じるのは多くの人々の共通した所であろう。

2004 年度における県内企業の海外進出先として、中国は2位のアメリカを大きく引きなはして第1位であった。これは6年連続となるものであり、全体として企業の海外進出が減少している中でも、唯一右肩上がりの傾向を示しているという。ここからも分かるように日本と中国は、お互いに大きく依存しあっており、その関係は切っても切られないほどのものになっている。まして、中国の高度経済成長が続いた未来を考えたとき、その関係は現在よりも重要で、より大きなものとなることであろう。生徒達が社会に出て活躍する頃、間違いなく大きなポイントとなっている日中の問題。学びを通して子供達が「生きる力」を養う上で、こうした現実的な未来をテーマとして扱い、個々に生き方を問うていくことが重要であると考えた。そうした意味において、中国を教材化し、地理の授業で位置づけることの意義を見いだしたのである。

##### ②生徒観

社会の授業の始まりに、生徒達がニュースを紹介する1分間スピーチを毎時間行っている。やってみると、どのクラスでも一週間に一度は中国に関連したニュースが発表される。それほど中国に関連するニュースは生徒達にも身近かなのであろう。4月は反日デモの話題で持ちきりであった。生徒達の口から出る中国に関するコメントは、残念ながら否定的なものが多い。2年生の最初の地理授業の際、簡単なアンケートを採った。その中で、「日本と仲が悪いと思う国」を聞いたのだが、39人中11人の生徒が中国をあげていた。また、「中国についてのイメージ」をさせたところ、「遣唐使など歴史的に日本と関わりの深い国」といった肯定的なものが見られる一方で、「少しこわい」「歴史問題でいろいろあって、すごく日本の事を批判しててイヤな国のイメージあがる」などの意見も少なくなかった。特に「ずっと日本と仲がよいと思っていたけど、反日デモを見て、ちょっとその気持ちもうすらいだ」といった記述に現れているように、反日デモのニュースを見た影響が色濃く現れていた。発達段階として致し方ないのだろうが、メディアに影響されたステレオタイプのなものも感じられ、自分の目で、そして頭で判断していこうといった部分が少ないようにも思えた。

##### ③指導観

社会科の授業では社会的な事象に対して、「自分なりの思いを持つ」といったことが何より大切だと考えている。しかし、そうした確固たる思いは、個々が疑問を解決する中でつかみとる、正確な事実認識。また、多面的な考察によって生まれる関係認識の上に成り立つものであり、自ら学び取る雰囲気の中でこそ生まれてくるものであろう。そして、こうした思いの積み重なりが、生地達の何らかの行動化へとつながっていくように思う。

このような視点に立ち、授業の中では追究の過程を重視し、展開を考えたい。本単元では多面的な追究を目的とした前単元「アメリカの調査」をうけて、テーマを個々に設定して、それを解決する中で中国の様々な地理的な要素を自ら学び取っていくといった、授業展開を考えたい。また、毎時間授業日記を取らせることにより、生徒達の追究過程を把握すると共に、個々の思いを練り上げていく場面を設定したい。

本単元を通して、生徒達が社会事象に対して、自らの調査を元にした自分なりの思いを持ち、未来に向けて明るい展望を持ち、力強く生かす態度を身につけることを目指している。

#### (2) 目 標

- ①日本と中国の関係について、両国が今後更に良好な関係を継続していく必要性を感じ、よりよい友好関係を構築して行こうとする態度を育てる。
- ②資料集などの図書資料やインターネット検索、更には聞き取り調査といった、あらゆる調査活動を通して、自己の学習課題に沿った適切な資料を集め、それを他に分かりやすく効果的に表現できるようにする。
- ③良好な日中関係の在り方を考える中で、中国の様々な地理的な事象について理解し、両国の友好関係を発展させるための知識を身につける。

(3) 単元構想

	学 習 課 題 ・ 内 容 と 生 徒 の 意 識	教師の支援
意欲化 ①	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: right;">①</p> <p style="text-align: center;">きき茶をやってみよう 2種類のお茶、ウーロン茶はどっち？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国産ウーロン茶の試飲</li> <li>・ 茶葉加工業者、城田さんのインタビュー視聴</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本場、中国のウーロン茶は日本のものと全然違う。</li> <li>・ 中国で活躍する日本人って、身近なところにもいるんだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国のウーロン茶と、日本のウーロン茶の飲み比べを行い、中国での本当の味が、日本のものとは違うことに気づかせる。</li> <li>・ 中国茶葉ウーロン茶を製造した、市内に住む城田さんに、中国では多くの日本人が仕事で活躍していることをインタビューで話していただき、その様子をVTRで視聴する。</li> </ul>
課題把握 ①	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: right;">②</p> <p style="text-align: center;">中国での日系企業の様子を調べよう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 写真による、中国都市部の経済発展状況を確認</li> <li>・ 中国に進出する日系企業数の実態把握</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>中国には、なぜこんなに日本の企業や合弁会社があるのか。</b></li> <li>・ 中国に進出することで日本の企業には、どんなメリットがあるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1970年～2000年の上海の写真を提示し、中国における都市部の経済発展の様子を感じ取れるようにする。</li> <li>・ 中日新聞サンデー版「中国で幕開け自動車戦争」を提示し、視覚的に日系企業進出の様子が捉えられるようにする。</li> </ul>
追究 ⑥	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: right;">③～⑤</p> <p style="text-align: center;">日本の企業を引きつける、中国の魅力を調べよう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 追究課題に対する予想</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口が多い      ・ 資源がたくさんある      ・ 国土が広い</li> <li>・ 船や飛行機を使った輸送が便利      ・ 人件費が安い</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人追究テーマの設定</li> <li>・ テーマに沿った個人追究</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">--- 予想される追究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国の国土（地形、広さ）や、保有資源の量</li> <li>・ 中国の産業や、経済のやり方とその現状</li> <li>・ 中国に住む多くの民族や、人口の変化</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マーケティングディスカッション形式で追究内容の発表</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国には、日本にはないものがたくさんある。</li> <li>・ 中国は、経済急発展中の勢いがある。</li> <li>・ 今後中国は様々な面で、今よりも力を付けるだろう。</li> <li>・ 日本の企業にとって中国の魅力的なところは、主に沿岸部に集中している。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: right;">⑥～⑧</p> <p style="text-align: center;">中国を調べて疑問に思ったことを、更に深く調べてみよう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前単元で学んだ、多面的な調べ方を生かして、個人追究ができるようにアドバイスする。</li> <li>・ 様々な課題に合わせた個人的な追究ができるように、パソコンや文献などの資料が、自由に使えるように準備する。</li> <li>・ 個々の追究テーマを座席表に記入し、生徒達に配布することで、調べが苦手な子でも、得意な子にやり方が聞きに行けるようにする。</li> <li>・ 調べの中で出てきた重要語句が記入できるようにワークシートを作成し、基礎基本の能力が確実に身につけられるようにする。</li> <li>・ 同じようなテーマで調べた生徒同士でグループを組み、他のグループの発表を聞くことで、学級全体での共通認識が深められるようにする。</li> <li>・ 「中国年間」などの統計資料から、「中国資料集」を作成</li> </ul>

- 中国の沿岸部に日本企業の進出がさかんなのはなぜだろう。
- 中国はなぜ一人っ子政策を行っているのだろうか。
- 外資系企業が増えたことで中国の経済はどう変わったのか。

- 個人追究
- 岡崎女子短期大学で留学する、張秀玲さんから聞き取り調査

- 中国の中でも地域差があり、沿岸部は経済発展が著しい。
- 中国は膨大な人口を抱えており、食糧不足が大きな問題。
- 改革、開放政策は中国経済に大きな変革をもたらした。

し、生徒達の個人追究がスムーズに進められるようにする。

- 中国の人と実際にふれ合い、会話をする機会を経験することによって、様々な考え方や視点が中国国内に存在していることがわかり、中国での生の声が、実感を持って感じられるようにする。

深化  
②

⑨⑩(本時)  
中国で日系企業や合弁会社が増えることは  
今後も、日中友好につながるだろうか

- NHK番組「過激反日デモ 世界はどう見た」の視聴
- 愛知産業大学で働く、張月美さんのインタビュー視聴

- 日本製品の性能は、中国の人にも認められている。
- 中国の人々にとって、日系の企業に就職することは、とても嬉しいことらしい。
- 日本人や日本の会社が中国でお金を儲けることを、中国の人は嫌がるだろう。
- 日本と中国の間には政治や歴史の問題があり、日本のことを嫌いな人も多い。

- 話し合い活動

- 中国には日本の企業がすでに根付いている。中国の人の給料も増えるし、日本も儲かるから日中友好につながる。
- 中国は経済を發展させている。自分たちで大きな会社を作れるようになったら、日本の会社はじゃまになると思う。

- NHKの番組を視聴し、今年中国で起こった反日デモの際、日系の商店に対する暴挙や、日本製品の不買運動があったことを確認する。
- 中国で生まれ、現在は日本で暮らしている張さんのインタビューを聞くことで、日本製品や企業が中国の社会にしっかり根を下ろしていることに気づけるようにする。
- 日本企業が中国に進出している内容の資料を提示し、今でも企業の進出がさかんに行われていることを実感できるようにする。
- 中国から撤退していく日本企業の資料も提示し、これまでとは違った新しい動きを考察し、生徒達の考え方の視野を広げられるようにする。

発展  
①

⑪  
今後の、中国とのベストな付き合い方を提案しよう

- 自分の考えをレポートにまとめ、クラス内で提案する

- 経済のつながりをもっと強くして、ヨーロッパみたいに経済圏を強めていくべきだ。
- 人と人との交流をもっと深めるべきだ。やっぱり実際に見たり聞いたりしないと、お互いのことはわからないものだ。

- 単元を通して考えたことをクラスの中で提案することで、個々の考え方をより深めることができるようにする。
- これまでの学習を生かして考え、否定派の意見の子も、日中友好のための他の方法を考えることで、未来の日中関係を積極的な内容で捉えられるようにする。

## 2. 本時の指導（10／11）

### （1）目 標

- ①これまでの調査活動をもとに、日系企業の中国進出を問う討論に意欲的に参加し、よりよい日中関係の未来を築いていこうとする態度を育てる。
- ②自分の考えの根拠となる文書資料や各種データ、インターネット資料、更には様々な立場の人から聞き取った意見を他に分かりやすく発表し、論理が展開できるようにする。
- ③日系企業の中国進出というテーマを軸に、人口、国土、産業、交通といった視点から多面的に中国を捉え、日中が今後さらに良好な関係を継続していく必要性を理解し、その知識を身につけられるようにする。

### （2）生きる力を育む授業の工夫

#### ①未来への生き方を問う課題の設定

今後の日中関係のあり方という今日的な課題に取り組むことによって、これまでの様々な調査活動を踏まえた上での、個々の価値判断を促し、未来へと生きて働く意識や、具体的な知識を身につけられるようにする。

#### ②立場を明確にした討論会

日系企業の中国進出に関しては、今後どうなっていくのか、誰にも分からない答えの見えない問題である。この問題に迫り、自己決定を行う中で、生徒達にこれまでの学習で積み重ねてきた知識を知恵として扱う必然性を生み出させ、「生きた知識」を獲得していけるようにする。また、自分と立場の違う友人の考え、更には日本人や中国人、はたまた両国の利害関係など様々な視点からの考えに出会う中で、より多面的に今後の日中関係という社会的事象を考察し、自己の考えを見直すと共に、自分と異質なものも認めていこうとする共生の意識を伸長できるようにする。

#### ③授業日記の記述

これまで通り、討論後に授業日記の記述を行う。こうした学習内容を個人の視点で捉えなおす活動を継続することによって、自己の考えの変遷を振り返ると共に、自分の学習に対する考察を行い、学習の成就感が味わえるようにする。

### （3）準 備

- ・教 師…応援メッセージビデオ・生徒が根拠を述べる際、必要になるであろうと予想される視聴覚メディア（OHP、OHC、VTR、PCなど）
- ・生 徒…教科書・学習の手引き・各種資料・座席表・付箋紙

### （4）展 開

段階	時間	学 習 内 容	生 徒 の 活 動	教 師 の 活 動
指向	5	・これまでの学習のふりかえり	1, これまでの追究の中で、いろいろ考えたことを思い起こし、討論への意欲を高める。 ・メッセージビデオの視聴	（支援） メッセージビデオを作成放送し、学習の振り返りが自然に行えるようにする。
把握	2	・討論テーマの確認	2, 討論のテーマを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">中国で日系企業や合弁会社が増えることは、今後も日中友好につながるだろうか</div>	<u>授業の工夫①</u> <u>生き方を問う課題の設定</u> 今日的なテーマを取り上げ、今後の日中関係を更によりよいものにする方法を考えるように伝える。
究明	40	・討論（話し合い活動）	3, 立場に分かれて討論を行う。 ・日中両国の視点からの意見を発表する 《日本側の視点から》 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">（進出賛成） ・中国には日本以上の膨大な資源と、労働力がある。日本企業にとっては大きな魅力である。</div>	<u>授業の工夫②</u> <u>立場を明確にした討論会</u>  自分の考えを立場と根拠を明確にして発表することを伝える  （発問） 日中両国の立場か

		<ul style="list-style-type: none"> <li>中国には大きな市場が存在し、日本より大きな購買力がある。</li> <li>中国の沿岸部には経済特区として、企業に有利な条件がそろっている場所がある。</li> <li>中国には日本ばかりでなく、いろいろな国の企業が進出しており、企業にとっては国際性を高めることができる。</li> </ul> <p>(進出反対)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本企業の技術が中国に流れれば、日本は中国に勝てるものがなくなってしまふ。</li> <li>日本企業が国外に出てしまうことで、国内での生産が減り、日本人が働ける場所がなくなってしまふ。</li> <li>日本人が中国で経済活動を行うことで、日本人への反感がよけい高まるのではないか。</li> </ul> <p>《中国側の視点から》</p> <p>(進出賛成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本企業がたくさん来てくれれば、働く場所も増え、お金をたくさん儲けられる。</li> <li>日本の高い技術を使った商品が安く買えるようになる。</li> <li>日本の技術を学ぶことができ、国内の産業の力が強くなる。</li> </ul> <p>(進出反対)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊富な資源や人材が日本の企業に取られてしまい、国内の産業が育たない。</li> <li>沿岸部ばかり経済発展することで、内陸部との格差が更に激しくなってい、国がまとまらなくなる。</li> </ul> <p>・「学びあいタイム」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国には大きな市場が存在し、日本より大きな購買力がある。</li> <li>中国の沿岸部には経済特区として、企業に有利な条件がそろっている場所がある。</li> <li>中国には日本ばかりでなく、いろいろな国の企業が進出しており、企業にとっては国際性を高めることができる。</li> </ul> <p>(進出反対)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本企業の技術が中国に流れれば、日本は中国に勝てるものがなくなってしまふ。</li> <li>日本企業が国外に出てしまうことで、国内での生産が減り、日本人が働ける場所がなくなってしまふ。</li> <li>日本人が中国で経済活動を行うことで、日本人への反感がよけい高まるのではないか。</li> </ul> <p>《中国側の視点から》</p> <p>(進出賛成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本企業がたくさん来てくれれば、働く場所も増え、お金をたくさん儲けられる。</li> <li>日本の高い技術を使った商品が安く買えるようになる。</li> <li>日本の技術を学ぶことができ、国内の産業の力が強くなる。</li> </ul> <p>(進出反対)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊富な資源や人材が日本の企業に取られてしまい、国内の産業が育たない。</li> <li>沿岸部ばかり経済発展することで、内陸部との格差が更に激しくなってい、国がまとまらなくなる。</li> </ul>	<p>ら、この問題を考えよう。</p> <p>(支援) 生徒の考えに朱書きを入れ、個々が話し合いに参加しやすくなるようにアドバイスを与える。</p> <p>(配慮) 発言が苦手な生徒も授業に参加できるように、状況に応じ意図的に指名する。</p> <p>(指示) 話し合いがなるべく深まりのあるものとなるように、関連した意見が言えるように指示する。</p> <p>(説明) 生徒が根拠として述べた言葉の中で必要だと判断したものは説明を加え、全体の認識を高める。</p> <p>(指示) 根拠となるデータや資料を提示してもよいことを伝える。</p> <p>(支援) どのような資料でも生徒の用意しているものは提示できるように機器を準備しておく。</p> <p>(配慮) 最後に生徒達が自由に席を動いて、個々の考えを見ることのできる「学びあいタイム」を設定し、発言が苦手な生徒の意見も全体に広まるようにする。</p> <p>(支援) 「学びあいタイム」が効率よく行われるように、個々の考えを示した座席表を用意し、事前に生徒に配布する。</p>
整理	3	<p>・授業日記の記述</p>	<p>4, 授業日記を記述する。</p> <p>(進出賛成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の国の立場に立って考えないと、本当の友好関係が何かは見えてこないものだ。</li> <li>経済の面だけでなく、他の部分のつながりや理解も、国際関係を考える上で重要ではないだろうか。</li> </ul>	<p><u>授業の工夫③</u> <u>授業日記の記述</u> 本時の授業で思ったことを記述し、学習の振り返りができるようにする。</p>

(5) 評価

- ①未来の日中関係を主体的に考え、自分なりの意見を持つとすることができたか。  
学習活動3の生徒の様子、学習活動4の授業日記の内容より
- ②日系企業の中国進出に対する自分の考えを、効果的な調べ学習で導き、クラスで主張ができたか。  
学習3の生徒の様子より
- ③国際社会の一員としての自覚を持ち、明日の日中関係の良好なあり方について理解、思考ができたか。  
学習活動3の生徒の様子、学習活動4の授業日記の内容より